淀川水系流域委員会 第 28 回琵琶湖部会 結果概要

開催日時：2004 年 10 月 13 日（水）10：00～13：15

場 所：コラボしが 21 3 階 大会議室

参加者数：委員 17 名、河川管理者（指定席）17 名

一般傍聴者（マスコミ含む）69 名

本稿は、議事の概要を簡略にまとめたものです。詳細な議事内容については、後日公開される議事録をご参照下さい。

1．決定事項

2．審議の概要

河川整備計画基礎案に係る具体的な整備内容シートに関する検討

ダムWG・SWGの報告と問題点等に関する検討

ダムWG・SWGリーダーからの報告

今後のWGの進め方について

報告に対する意見等

その他

河川整備計画進捗状況報告に関する意見交換

3．今後のスケジュールについて

4．一般傍聴者からの意見聴取

1．決定事項

- ・「河川整備計画基礎案に係る具体的な整備内容シート」への意見を提出する。締切日は10月25日とし、前回の「基礎原案に係る具体的な整備内容シート」のチェック分担箇所を中心に意見を提出する（分担は庶務が確認して連絡する）。その後、江頭部会長代理を中心に意見をとりまとめ、11月8日開催の第29回琵琶湖部会に意見とりまとめを提出する。
- ・資料3「河川整備計画進捗状況 報告資料」への意見を提出する。締切日は11月15日。資料3で報告された事業以外についても意見があれば提出する。

2．審議の概要

河川整備計画基礎案に係る具体的な整備内容シートに関する検討

資料1「整備内容シートに関わる各委員からの意見」を参考に意見交換が行われ、「1．決定事項」のとおり、決定した。主な意見は以下の通り。

- ・整備内容シートへの意見を出してもらいたい。意見がない場合は消極的ながらも「了承した」ということで事業が実施されるので、意見がある場合はお願いしたい。また、整備内容シートに記載されていないが、ぜひ必要だと思われる事業があれば、あわせて意見を頂きたい。(部会長)

資料1に対する河川管理者からコメント

- ・委員から頂いたご意見は、次回、整備内容シートを修正する際に反映していきたい。琵琶湖だけではなく、淀川や猪名川に関するご意見も多く含まれているので、こういったものも含めて、修正をかけていきたい。
- ・川端委員のご意見のうち、琵琶湖部会に関わるご意見「2)環境40」と「4)環境55」は反映させて頂きたい。
- ・小林委員の河畔林に関するご意見は、治水機能等を考慮して全体の中で考えていきたい。また、住民参加に関するご意見は、11月7日に立ち上がる河川保全利用委員会で、地域住民の方々の声を聴きながら、河川敷の適正利用も含めて、ご議論を頂こうと思っている。

ダムWG・SWGの報告と問題点等に関する検討

水山委員より資料2-1「3ダムSWGにおける検討状況」を参考に3ダムSWGの検討状況について説明が為された後、意見交換が行われた。主な意見は以下の通り。

ダムWG・SWGリーダーからの報告

- ・3ダムサブWGでは、治水に関しては高時川の瀬切れと宇治川1500m³/s整備について、利水に関しては異常湧水時の緊急水の補給について、河川管理者から説明を受け検討を行った。治水に関しては、基本的な説明がいまだに為されていないため、治水の目的やその目的に対するダムや代替案の効果を議論する前段階にとどまっていると考えている。利水に関しては、水需要の精査確認結果が出てきていないため、どこかの段階で「新規利水はゼロ」と設定して検討を進めざるを得ないのではないかと考えている(3ダムSWGリーダー)。
- ・ダムWGの今後の検討方針(案)を説明したい。まずは、ダムの主たる目的およびその効果について精査する。次に、具体的な目標を達成するための経済的にも実行可能で有効なダム以外の方法について検討する。そして、ダムによる方法とダム以外の方法の優位性を検討する。以上の手順でダムWGの検討を進めていきたいと思っている。利水については、精査確認の結果が出れば、すぐに教えて頂きたい(ダムWGリーダー)。
- ・河川管理者の資料は十分とは言えないので、資料が出揃うのを待つべきではないかという意見もあるが、運営会議において、ダムWG報告書を任期中に作成することが決まった。ダムWG報告書の作成手順としては、まず「たたき台」を作業部会で作成して11月の委員会に提出し、意見を募集する。各委員の意見を集約・反映して、

12月の委員会にダムWG報告書を提出するという手順を進める予定となっている。委員一人一人にダムに対する自分の意見を述べて欲しいと思っている（ダムWGリーダー）。

今後のWGの検討方法・進め方について

- ・委員がダムをどう考えるのか、一人一人が意見を述べることは確かに大切だが、本来の委員会としての結論は、河川管理者のダムの考え方に納得するかしないかということだ。委員会として、代替案を比較検討した上で、ダムを許容することができるのかどうか、その結論を委員会として出さなくてはならない。また、琵琶湖部会としても、ダムの代替案も考慮した上で、河川管理者の説明に納得できるかどうか、結論を出さなければならない（部会長）。
- ・ダムによって、不可逆的かつ致命的な問題が起きる可能性がある。これは非常に重要な問題なので、ダムWGの検討手順として外すことはできない（部会長）。
- ・治水の最終目的がどこにあるのかをはっきりしておく必要がある。議論しやすい流量や雨量に特化した審議になりがちだが、「社会的な被害」という面から治水政策を考えないといけない。「人命を失わない」「床上浸水ではなく床下にとどめる」「破堤しないように堤防を強化する」「越水による浸水被害から生活を再建していくための補償」といった社会経済的な面にまで踏み込んだ議論をしていきたいと思っている。
- ・現段階では河川管理者だけでは決められない、他省庁や自治体との連携等が必要な問題が多くある。提言ではそういったことにまで踏み込んで意見を述べた。最終的な委員会の意見書でも、同じように踏み込んだ意見を述べる必要があるのかどうか、委員会で議論をしておく必要がある（部会長）。

ダムWG・SWG報告に対する意見等

- ・ダムは治水目的を達成するための手段。その治水目的を達成するためにどの手段を選ぶのが最も適切かどうかという観点から議論していく必要がある。

第1回3ダムWG 資料1-5「丹生ダム・大戸川ダム・天ヶ瀬ダム再開発について」の「効果があると考えられる事項」欄をご参考頂きたい。ダムを実施すると決めたわけではないので、「目的」ではなく「効果」としてまとめているが、この欄の記述を委員の言う「目的」と考えて頂いても構わないだろう（河川管理者）。

- ・3ダムSWGでは、琵琶湖の水位低下抑制についても検討が行われた。琵琶湖の水位低下抑制は、ダムによってではなく、洗堰の水位操作改善によって解決していくべきというのが3ダムSWGでの主要な意見だった。

琵琶湖河川事務所の水陸移行帯WGで、環境の観点から水位操作について検討をしている。水位操作と制限水位は非常に長い時間をかけてようやく合意したもので、これを変更するためには行政的な手続きと調整が必要になり、すぐに変更するわけにはいかないだろう。しかし、現状のままでよいとは思っていない

いので、環境・治水・利水の観点から、水位操作がどうあるべきか、勉強をしている（河川管理者）

- ・ダムWGの議論は論点が絞りにくい。ダムWGでは、治水を中心に議論すべきだ。すべてを同じように議論してはいけない。
- ・ダムが環境に与える影響がよく分かっていない状況で、ダムWGの結論が出せるのか心配している。
- ・対象とする降雨の規模を、既往最大実績洪水とするのか、あるいは既往最大雨量の降雨パターンによる引き伸ばしとするか。異常降雨が頻発しているのは確かだが、仮定の降雨を考えはじめるときりがなくなる。既往最大の実績洪水を対象に危険箇所への堤防強化や河道拡幅で対応すれば洪水の危険性は抑えられる。20～30年の整備計画であれば、まずはこれを緊急的に実施してもらおうよう、意見していくべきだ。
- ・条件付きで、既往最大の実績洪水を対象とすべきだと考えている。過去において実績洪水で起きた被害を、水量ではなく、死者や壊滅した家屋の数、水に浸かった水田の面積等、現場の社会的被害がどの程度だったのか、精査しながら決めていくべきだ。その結果、壊滅的な被害が発生してしまい地域生活が保全できないような場所については、引き伸ばし降雨を対象とする必要が出てくるだろうと思っている。
- ・琵琶湖周辺の既往最大降雨である明治29年の降雨については、シミュレーションに必要な下流域の水位や水量が分からないため、既往2位の昭和36年の降雨を対象にして検討が進められている。仮想でもよいので、明治29年の降雨についてもシミュレーションを実施してみて、ダムができればどれだけ被害が減少するのか、示して欲しい。

その他

河川整備計画進捗状況報告に関する意見交換

河川管理者より資料3「河川整備計画進捗状況 報告資料」を用いて説明が為された後、意見交換が行われ、「1. 決定事項」のとおり、決定した。主な意見は次の通り。

- ・P9に専門家からのアドバイスとして「県管理区間の植生を抜根し土砂供給を行い、伏流水を防止すれば河床安定が図れるのではないかとあるが、これには「川が川をつくる」という視点が抜けている。複数の専門家に意見を聞いてみて欲しい。
- ・P7は、河床が安定している方がよいという書き方になっているが、場所によっては、そうでない場合もある。また、P31では「判明」という言葉が使われているが、以前から分かっていることなので、「判明」は使わない方がよい。また、滋賀県との連携については、直轄地域以外でも進めて欲しい（部会長）
- ・県管理区間との連携はどの程度進んでいるのか。例えば、高時川の河道内樹木の伐木ではどのような具体的な連携が行われているのか。

まずは、直轄としてやるべきことをやる必要があると思っている。直轄区間で

何をすべきかを明らかにして、それを県に伝えながら、連携していこうと考えている。河川保全利用委員会でも、県との連携について、河川区域外も含めて意見を頂き、連携できるものがあれば調整を図っていきたいと考えている（河川管理者）。

- ・河川レンジャーについては、気長に確実に地域のキーパーソンを発掘して、一緒にやっていって欲しい。県や市町村の中には、すでに活動しているところもあるので、上手く連携して、河川レンジャーの仕組みを動かして欲しい。
- ・節水に関するラジオCMの説明があったが、内容について、少し見直した方が良い。「人間にしかできない」というナレーションの直後に「国土交通省」が続くと、国土交通省にしかできないと受け取られかねない。
- ・水位低下の影響として、水ヨシが陸ヨシになってしまう例もある。水陸移行帯の重要な働きが失われてしまうそれもあるので、この影響についても検討して欲しい。
- ・水需要の精査確認は、ダムWGの検討に間に合うのか。
相手のいることなので、確実なことは言えないが、ダムWGの審議に間に合うよう努力していきたい（河川管理者）。

3. 今後のスケジュールについて

今後の琵琶湖部会のスケジュールについて意見交換が行われ、「1. 決定事項」のとおり、決定した。主な意見は次の通り。

- ・琵琶湖部会として、どのような判断をして、最終的な意見書をつくるべきか。その際には、琵琶湖部会の意見書が非常に重要になってくる。琵琶湖部会の意見書では「長期にわたって影響が出てくる琵琶湖特有の問題について十分配慮した計画の検討を進めるべきだ」と述べている。琵琶湖部会としては、この意見書と河川管理者の説明資料とのギャップや事業の進捗度合いについてどう考えるのかを議論し、最終的な意見をまとめていけばよいのではないかと考えている。
- ・水位操作と琵琶湖沿岸の問題は、琵琶湖部会で集中的に議論しなければならない問題だ。琵琶湖河川事務所の水陸移行帯WGでは、この問題について検討が進んでいるとのことなので、ある程度のまとめを提出して頂いて、12月頃に集中的に議論をしたいと考えている。よろしくお願ひしたい（部会長）。
- ・琵琶湖部会と3ダムサブWGを合同で開催したほうがよいと思っている。特に異存がなければ、合同で開催する方向で考えさせていただきたい（部会長）。

4. 一般傍聴者からの意見聴取

一般傍聴者1名より発言があった。主な意見は以下の通り。

- ・本日のダムに関する議論は非常に残念だった。委員会がはじまってすでに4年が経過しているにもかかわらず、あの程度の議論をしてはいけぬ。先日の余野川ダ

ムの住民説明会で一般傍聴者から「ダムをつくるか作らないか、早く決めて欲しい。作らないなら補償交渉をはじめると」いう意見が出ていたが、ダム建設を4年もストップさせておきながら、この程度しか議論が進んでいないのでは話にならない。委員の理解にも大きな格差がある。もっと勉強してほしい。

- ・河川管理者から利水の精査確認がいまだに出されていない。河川管理者には権限があるのだから、利水者に対して「いつまでに出さなければ、前回と同じと見なす」というように強く言っていくべきだ。

以上